

図書館だより



千葉県立柏高等学校 図書委員会
2018.7.13発行 No.280
担当 佐藤

みなさんこんにちは！期末テストお疲れ様でした。出来栄えはどうであれ、みなさん肩の荷が下りたのではないのでしょうか。さて、待ちに待った夏休みが近づいてきました。夏休み前の図書館では、夏休み中の特別貸し出しをしています。普段、あまり本は読まないという人も、今年の夏は一冊でいいので読んでみませんか？きっと新しい世界に出会えるはずです！

☆夏休み開館のお知らせ☆

開館日…… 7/23(月)～7/31(火)
8/20(月)～8/24(金)

開館時間…… 9:00～15:30(土日はお休みです)

夏休みの特別貸し出し 1人……20冊まで

上記の期間以外も、平日は毎日、自習室としての利用が可能です。(8月13日、14日、15日を除く)
涼しい図書館に勉強に来てはどうでしょうか。

【先生のオススメ本紹介】

今回本を紹介して下さったのは、国語科の白井先生です。学期末のお忙しい中、図書委員の依頼を快く引き受けてくださいました。みなさんぜひ読んでみてください。またこれを参考にしてみてください。

国語科 白井 肇先生(1年3組担任)

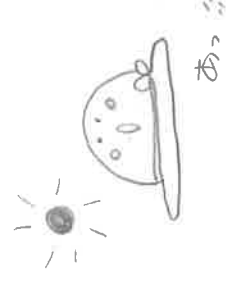
厳しい禁教政策がとられていた江戸時代、ポルトガルからキリスト教布教のために密入国した神父が自分の信仰を捨て、「転ぶ」までを描いた作品です。布教の情熱に燃えた神父が、様々な弾圧に会い、最後に踏み絵に足を乗せる場面がこの作品の最重要場面です。同時に神父が抱く神の沈黙への不信感や、自分を何度も裏切り、すり寄ってくるキチジローという日本人への嫌悪感など印象深い場面が多くあります。過去には今はなくなりました「三百人劇場」で「劇団昴」が演劇として発表したり、また最近ではマーティン・スコセッシが映画化したりして評判になりました。しかしそれらも遠藤周作の文章表現が創り出す世界の魅力を越えられないように感じました。

先日長崎の教会群が世界遺産に登録されたことが報道されました。昔この地域を巡り歩いたことがあります。資料館では当時使われていた、すり減った踏み絵(硯)を見ました。地方に残された小さな教会は、バスが一日に一、二往復しかないほど不便な場にあり、訪れる観光客もほとんど見当たらなかったように記憶しています。山の合間に、十字架が据えられた日本風の臺石が点々と立っている光景を目にした時、ひなびた漁村を着た修道女とすれ違ったりなど感慨深いものがありました。一冊の本の紹介という今回の依頼は、様々なことを思い出すきっかけにもなり、感謝しています。

古本市のお知らせ

今年も、学校で購読している昨年度までの雑誌や付録類、そして古い赤本をみなさんに無料で差し上げます！欲しい方はお早めに図書館まで！希望者が多いものは抽選となります。

- 展示、応募期間 ……7/12(木)～7/13(金)
- 配布日時 ……7/18(水) 12:30より
- 申し込み方法 …… 希望票にクラス・氏名を記入し、本にはさんでください。



希望した方は忘れずに取りに来て下さい！

貸し出し期限の過ぎた本は大至急返却しましょう！

読書感想文コンクールへのお誘い

夏休みといえば読書感想文！今年もコンクールが開かれます。時間に余裕のある方はぜひ挑戦してみてくださいでしょうか。コンクールに応募する作品は課題図書と自由図書です。課題図書の紹介は下記になります。規定も以下の通りです。

- 対象図書 自由図書……自由に選んだ図書。フィクション、ノンフィクションを問わない。
課題図書……以下の3冊です。



小林照幸



『いのちは贈りもの』

フランシーヌ・クリストフ著
「ぼくは世界中に喜びを運んでいく
かばんに歌をつめこんでぼくはうた
う・・」と迫害のさなか友と歌いな
がらつらい収容所生活を耐え抜いて
「絶滅」させられたけた、わたしに
いのちという贈り物をつないでくれ
た。

『車いす犬ラッキー』

小林照幸著
闘牛で有名な奄美群島の徳之島。この
島に生きた車いすをつけた犬ラッキー。
交通事故で歩行できない犬は安楽死？
と言ふ選択枝を選ばずに共に生きる為
飼い主の熱い努力がラッキーの人生を
変えた。みなさんはどう考えますか？

『わたしが いどんだ戦い』

1939年
キンバリー・ブルベーカー・ブラッドリー著
1939年。二度目の世界大戦さなかの
ロンドン。足の悪いエイダは、けんめ
いに歩く練習をしていた。歩けさえす
れば、弟といっしょに疎開できる！
自分らしく生きるために闘う少女と、
彼女を温かく包む村の人たちをえがく。

• 用紙、字数

原稿用紙を使用、自筆で縦書き。原稿用紙の大きさ、字詰めに規定なし。本文2,000字以内。
句読点、改行のための空白箇所も字数として数える。題名、学校名、氏名は字数に数えない。

• 締め切り

9月23日までに司書・荒井先生のところまで提出してください。



* 図書館よいお知らせ *

夏休み直前、皆さんたくさんの宿題を抱えていると思います。図書館ではその手助け？として**沖縄コーナー**を設置してあります。また課題の本が探しやすいように、リストやシールを貼って対応しています。探している本が見つからないときは過ぎに司書・荒井に聞いてくださいね。

1学期末たくさんの新刊も入りました。「本は心の栄養素」たくさん読んで夏に負けないようがんばってください。
『ブラックペアン』海堂 尊著 『未来』湊 かなえ著 『ののびな通信』三浦 しをん著 『はじめての沖縄』岸 雅彦著
『絶滅の人類史』更科 功著 『現代社会はどこに向かうか』見田 宗介著 『世界まちかど地政学』藻谷 浩介著
『万引き家族』是枝 裕和著 『それまでの明日』原 寮著 『海峡を渡る幽霊』李 昂著 『さんねんな偉人伝』真山 知幸著
『街の中でみつかるすごい石』西本 昌司著 『眠れなくなるほど地理がおもしろくなる本』『隠れキリシタン』後藤 夏樹著
『あたしの一生』ディー・シェイ著 『5時過ぎのランチ』羽田 圭介著 『金曜日の本屋さん』名取 佐和子著
『池上彰の世界の見方 朝鮮半島』『5秒後に意外な結末』桃戸 ハル著 『いいこじゃないといけないの?』香山 リカ著
などたくさんあって紹介し切れません。何かあるかは図書館に着てのお楽しみですよ。

いざ挑戦!! カクヨム甲子園2018 文学はキミの友達。

高校生を対象とした、今のキミにしか書けない物語を書いてみませんか？しっかりとした物語を書きたい人はロングストーリー部門、8000文字～20000文字) 短い文章量で魅せたい、または気軽にチャレンジしてみたい人はショートストーリー部門 (4000文字以下)。豪華商品もあります。応募期間は7月21日から9月10日チャレンジしてみたい人、詳細は司書荒井まで。